

道徳の教科化に対する教師・保育者及び学生の認識 (1)

* 越 中 康 治

Opinions on the Introduction of Moral Education as “Special Subject” (1)

ETCHU Koji

要 旨

本研究の目的は、現場の教師や将来教員を目指している学生たちが道徳の教科化を好ましいと感じているのか否かについて、探索的に検討を行うことであった。教育学部生、保育者、小学校教員、中学校教員及び高等学校教員を対象として質問紙調査を実施し、①道徳の教科化、②道徳に検定教科書を導入すること、③道徳で評価を行うことのそれぞれについて、好ましいと思うか否かを尋ねた。また、現職者の一部に対しては、①～③のそれぞれについて知っているか否かを尋ね、知っているか否かと好ましいと思うかの判断との間にどのような関係があるかを探った。その結果、主として次の2点が明らかとなった。第1に、道徳の教科化をめぐることは、当事者とも言える小学校教員及び中学校教員の9割近くが教科化そのものを知っており、道徳で評価を行うことについても知っているが、検定教科書の導入に関しては3割程度が聞いたことはあるがよくわからない状態にあった。また、保育者や高等学校教員においては、そもそも道徳の教科化自体について知らない、あるいはよくわからない状態にあることが示された。第2に、道徳の教科化をめぐることは、特に小学校教員及び中学校教員においてネガティブな評価が示され、教科化を好ましいとする者は2割に満たず、評価を行うことを好ましいとする者は1割にも満たなかった。他方、教育学部生及び保育者・高等学校教員においては、小学校教員や中学校教員ほどネガティブな評価は示されなかったが、その理由は、そもそも道徳の教科化に関してよくわかっていないからである可能性が示唆された。

Key words : 道徳教育、道徳の教科化、特別の教科道徳、検定教科書、評価

1. 問題と目的

2016年9月末現在、道徳教育に関する文部科学省のウェブサイトの冒頭には、“道徳が「特別の教科」になり、入試で「愛国心」が評価されるというのは本当ですか？道徳が評価されると、本音が言えなくなり、息苦しい世の中にならないか心配です”という問いと、“道徳科の評価で、特定の考え方を押しつけたり、入試で使用したりはしません”という答えとが記されている(文部科学省, 2016)。同ウェブサイトには、さ

らに不安を低減すべく、“評価は教育改善のためのものであり、道徳科では、特に、数値で評価して他の子供達と比較したり、入試で活用したりすることはしません”、“「国や郷土を愛する態度」などの個別の内容項目の評価はしないので、「愛国心」を評価することなどあり得ません”といったことが強調されたPDF資料(文部科学省初等中等教育局教育課程課, 2016)も掲載されている。

道徳で評価を行うことに関して、こうした説明で不安が低減される人もいるかも知れないが、かえって懸

* 学校教育講座

念を抱く人もいるであろう。また、例えば、「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」などを読み進めて、“教師は生徒の努力を評価し、挑戦することから逃げないで努力し続ける姿勢が大切であることを伝えていくことが重要である”(文部科学省, 2015a, p.32)のような記述にあたったときの反応も人それぞれであろう。これを好ましいと感じるか、得も言われぬ気持ち悪さを感じるか、人によってだいぶ異なるものと予想される。

さらに、“質の高い教科書を使えるようにし、9年間を通じて適切な学習が行えるようにします”(文部科学省初等中等教育局教育課程課, 2016)のような説明に対しても、検定教科書の導入によりそれが果されると思う人もいれば、「私たちの道徳」などから類推して否定的な見解を持つ人もいるであろう。“道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければならないことは言うまでもない”(文部科学省, 2015b, p.100)というような「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の記述に関しても、抵抗を感じずにいられるか否かは人それぞれであるものと思われる。

「特別の教科道徳」では、“よく考え、議論する道徳へと転換し、特定の考え方に無批判で従うような子供ではなく、主体的に考え未来を切り拓く子供を育てます”(文部科学省初等中等教育局教育課程課, 2016)とされているが、今回の教科化に関してどの程度「考え、議論された」といえるのか、評価も分かれるところであろう。例えば、岩佐(2015)は、かつて2010年の日本道徳教育学会における大会テーマ設定の趣旨の中で、“「学習指導要領によれば、…」とか「今回の改訂の趣旨は…」で始まっていた学会での議論”(p.111)に疑問を呈したことにも言及しつつ、道徳の教科化にあたっては“道徳教育の考え方すべてをゼロから見直すという姿勢が望まれるのではないか”(p.109)として、学習指導要領の抜本的な改訂の必要性を指摘した。しかし、こうした指摘にもかかわらず、今回の改訂はすべてをゼロから見直したものとは言い難いものとなった。むしろ、教科化を望んでいた人たちのための教科化なのではないかととらえる人もいるかも知れない。

教科化をめぐる評価は、教科化を望んでいた人たちにおいては勿論ポジティブであろうが、その他の人々

においては当然のことながら必ずしもポジティブではない。むしろ、“「道徳」の教科化に伴う一律的な性質は、道徳が持つ民主的原則を侵害し、道徳的思考の多様性を縮小させる”(岡田, 2015, p.67)という指摘や“義務教育段階における宗教系私立学校の存在意義を毀損するような過度の均質化に向かうこと”(中村, 2015, p.257)への懸念など、ネガティブな評価も極めて多い。また、例えば山崎(2016)は、“従来の「道徳の時間」にあっても、年間計画や教材の変更にはきわめて消極的”(p.191)であったが、このたびの“「解説」における「道徳科」の指導計画観の最大の問題点は、それが従来以上に硬直的なことである”(p.191)と指摘している。こうした状況について、子どもに対しては「主体的に考え、特定の考え方に無批判で従うことのないように」と言いながら、現場の教師に対しては主体的に考えることを禁じ、「教科化は必要で良いことなのだ」という特定の考え方に無批判で従うように強要しているのではないかという見方もあり得るのではないだろうか。

いずれにせよ、道徳の教科化をめぐる気にかかることは、こうした多様な見解があり得る筈なのに、現場の教師や関係者がどのような思いを抱いているのかが見えてこないことである。現場の教師や将来教員を目指している学生たちは、そもそも道徳の教科化を好ましいと感じているのだろうか。本研究では、この点について、質問紙調査から探索的に検討を行う。

2. 方法

(1) 調査時期、調査協力者及び実施手続き

教育学部生及び現職の保育者・教員(以下、現職者)を対象として質問紙調査を実施した。教育学部生については、2016年4月に宮城教育大学の「道徳教育の研究」(教育職員免許法施行規則に定める科目区分では「道徳の指導法」に該当する)の初回授業に出席した学部3年生173名を対象とした。また、現職者については、2016年に宮城県内で実施された道徳教育に関する校内研修、教員免許状更新講習及び免許法認定講習の参加者171名(①2月上旬実施の公立中学校校内研修の参加者30名、②7月上旬実施の公立小学校校内研修の参加者16名、③7月下旬実施の教員免許状更新講習の参加者61名、④8月下旬実施の免許法認定講習の参加者

19名、⑤9月中旬実施の教員免許状更新講習の参加者45名)を対象とした。調査は授業及び研修・講習の冒頭で実施し、一斉に配布・回収した。調査は無記名式であり回答は任意であること、授業や講習の成績・評価等とは一切無関係であり質問紙を提出しなくても不利益は生じないことを質問紙に明記し、口頭でも伝えた。

回収された質問紙のうち必要な記載がなかったものを除外し、さらに、保育者・教員以外の講習参加者(2名)を除いた結果、最終的な分析対象者は、教育学部生170名(男性66名、女性104名)、現職者151名(男性56名、女性95名)となった。現職者の所属校園種は、幼稚園、保育所・保育園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校と多岐にわたった。このうち、幼稚園(10名)、保育所・保育園(17名)、認定こども園(2名)については保育者として統一した。また、特別支援学校(5名)については、教育経験を尋ねたところ4名が小学校、1名が高等学校を主としていたため、それぞれ小学校教員と高等学校教員に含めることとした。これに伴い、現職者の内訳は、保育者29名(男性0名、女性29名)、小学校教員73名(男性30名、女性43名)、中学校教員35名(男性16名、女性19名)、高等学校教員14名(男性10名、女性4名)となった。分析対象者の平均年齢は、教育学部生20.2歳($SD=0.5$ 、範囲:20-22歳)、保育者38.5歳($SD=7.0$ 、範囲:30-54歳)、小学校教員43.2歳($SD=9.6$ 、範囲:23-59歳)、中学校教員40.5歳($SD=9.7$ 、範囲:25-59歳)、高等学校教員43.4歳($SD=8.5$ 、範囲:33-54歳)であった。

(2) 調査内容

本研究において実施した質問紙は、フェイスシート(性別、年齢、現在の所属校園種、保育・教育経験の内訳と総経験年数等を尋ねる項目)に続いて、本報で報告する「道徳の教科化に関する質問」の他、道徳教育に関する様々な質問項目から構成された。フェイスシートと道徳の教科化に関する質問の他は、本研究の分析には用いられなかったため、以後の説明では省略する。

①道徳の教科化について 「道徳の教科化について、好ましいか好ましくないか、いずれとお考えですか」と尋ね、「5.非常に好ましい」「4.好ましい」「3.どちらとも言えない」「2.好ましくない」「1.非常

に好ましくない」からひとつを選択するよう求めた。

②道徳に検定教科書を導入することについて 「道徳に検定教科書を導入することについて、好ましいか好ましくないか、いずれとお考えですか」と尋ね、「5.非常に好ましい」「4.好ましい」「3.どちらとも言えない」「2.好ましくない」「1.非常に好ましくない」からひとつを選択するよう求めた。

③道徳で評価を行うことについて 「道徳で評価を行うことについて、好ましいか好ましくないか、いずれとお考えですか」と尋ね、「5.非常に好ましい」「4.好ましい」「3.どちらとも言えない」「2.好ましくない」「1.非常に好ましくない」からひとつを選択するよう求めた。

なお、7月下旬以降に調査を実施した現職者(7月下旬実施の教員免許状更新講習、8月下旬実施の免許法認定講習及び9月中旬実施の教員免許状更新講習の参加者)に対しては、①～③のそれぞれについて、好ましさを尋ねる前に、「先生はご存知ですか」と尋ね、「知っている」「聞いたことはあるがよくわからない」「知らない」からひとつを選択するよう求めた。その上で、「『知らない』『聞いたことはあるがよくわからない』という方も、好ましいか好ましくないか、イメージで結構ですでお答えください」と教示し、好ましさについて尋ねた。

また、①～③における好ましさの選択の後には、教育学部生・現職者全員に対して、それぞれの理由づけを求めている。この理由づけの分析は次報で行うこととし、本報では扱わない。

3. 結果

(1) 教科化等について知っているか？

①道徳の教科化について 現職者を対象として、道徳の教科化について知っているか否かを尋ねた結果を Figure 1 に示す。小学校教員及び中学校教員においては9割近くが「知っている」と選択した。しかし、保育者及び高等学校教員においては「知っている」という回答は少なく、特に保育者では半数以上が「知らない」を選択していた。

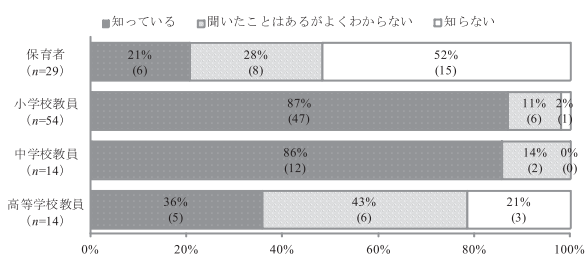


Figure 1 道徳の教科化について知っているか (括弧内は実数)

②道徳に検定教科書を導入することについて 現職者を対象として、道徳に検定教科書を導入することについて知っているか否かを尋ねた結果を Figure 2 に示す。「知っている」を選択した割合は小学校教員及び中学校教員においても7割程度であり、高等学校教員においては4割が、保育者においては9割近くが「知らない」を選択していた。

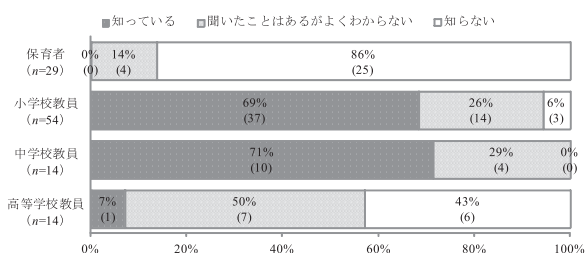


Figure 2 道徳に検定教科書を導入することについて知っているか (括弧内は実数)

③道徳で評価を行うことについて 現職者を対象として、道徳で評価を行うことについて知っているか否かを尋ねた結果を Figure 3 に示す。小学校教員及び中学校教員においては、教科化と同程度に9割近くが「知っている」と選択した。しかし、高等学校教員

においては約4割、保育者においては約7割が「知らない」を選択していた。

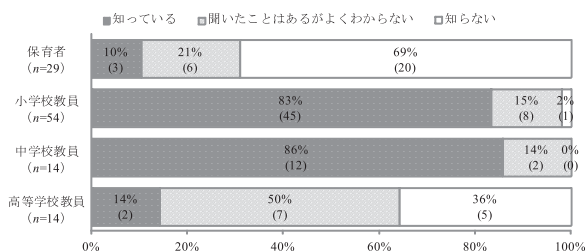


Figure 3 道徳で評価を行うことについて知っているか (括弧内は実数)

(2) 教科化等について好ましいと思うか？

①道徳の教科化について 教育学部生及び現職者を対象として、道徳の教科化について好ましいと思うか否かを尋ねた結果を Figure 4 に示す。小学校教員においては「どちらとも言えない」が49%と最も多く、「非常に好ましくない」と「好ましくない」が合わせて36%、「非常に好ましい」と「好ましい」が合わせて15%であった。また、中学校教員においては「好ましくない」が46%と最も多く、次いで「どちらとも言えない」が37%であった。小学校教員・中学校教員ともに「非常に好ましい」と「好ましい」を合わせても2割に満たなかった。他方、教育学部生、保育者及び高等学校教員においては「好ましい」を選択している割合が4割近くと相対的に高くなっていった。

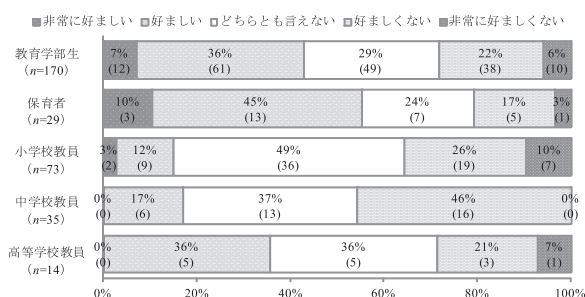


Figure 4 道徳の教科化について好ましいと思うか (括弧内は実数)

②道徳に検定教科書を導入することについて 教育学部生及び現職者を対象として、道徳に検定教科書を導入することについて好ましいと思うか否かを尋ねた結果を Figure 5 に示す。教育学部生、保育者、小学校教員及び中学校教員においては「どちらとも言え

ない」が4～6割と最も多く、それ以外の選択では「好ましくない」が若干優勢であるものの、判断は拮抗していた。他方、高等学校教員においては、「好ましい」が43%と最も多かったが、「どちらとも言えない」が29%、「好ましくない」と「非常に好ましくない」が合わせて28%と判断が分かれていた。

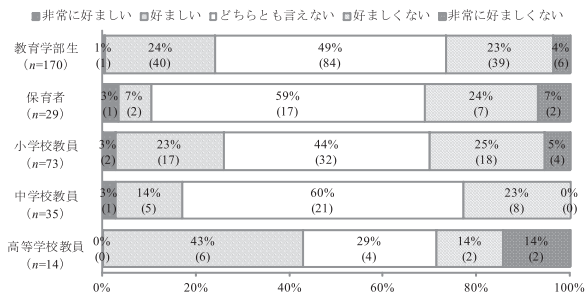


Figure 5 道徳に検定教科書を導入することについて好ましいと思うか (括弧内は実数)

③道徳で評価を行うことについて 教育学部生及び現職者を対象として、道徳で評価を行うことについて好ましいと思うか否かを尋ねた結果を Figure 6 に示す。いずれの群においても「好ましくない」が最も多い (保育者では「どちらとも言えない」と同数) のに対して、「好ましい」と「非常に好ましい」は合わせても1割以下であった。

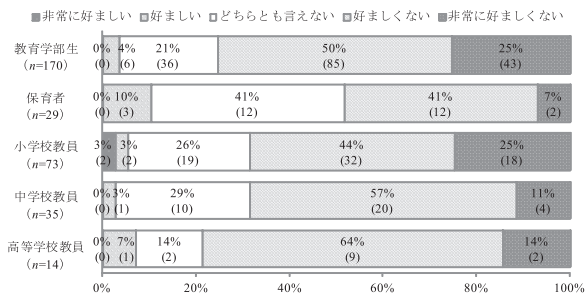


Figure 6 道徳で評価を行うことについて好ましいと思うか (括弧内は実数)

(3) 知っているか否かと好ましいと思うかとの関係

道徳の教科化、検定教科書の導入及び評価に関する現職者の回答に関して、知っているか否かと好ましいと思うか否かとの関係をまとめたものを Table 1 に示す。まず、道徳の教科化に関して、小学校教員で最も多いパターンは「知っている×どちらとも言えない」(37%)であり、次いで「知っている×好ましくない」(28%)であった。中学校教員では「知っている×好ましくない」(43%)が最も多く、次いで「知っている×どちらとも言えない」(21%)と「知っている×好ましい」(21%)が同数であった。他方、高等学校教員では「聞いたことはあるがよくわからない×どちらとも言えない」(29%)、保育者では「知らない×好ましい」(24%)が最も多かった。

次に、道徳に検定教科書を導入することに関して、小学校教員と中学校教員では「知っている×どちらとも言えない」が3割程度と最も多かった。他方、高等学校教員においては「聞いたことはあるがよくわからない×好ましい」(29%)、保育者では「知らない×どちらとも言えない」(52%)が最も多かった。

最後に、道徳に検定教科書を導入することに関して、小学校教員及び中学校教員では「知っている×好ましくない」が3割強と最も多く、次いで「知っている×非常に好ましくない」と「知っている×どちらとも言えない」がそれぞれ2割程度となっている。高等学校教員では「知らない×好ましくない」(29%)が最も多く、次いで「聞いたことはあるがよくわからない×好ましくない」(21%)であった。また、保育者では「知らない×どちらとも言えない」(31%)が最も多く、次いで「知らない×好ましくない」(24%)であった。

Table 1 道徳の教科化, 検定教科書の導入及び評価に関する保育者と教員の認識

	道徳の教科化について				道徳に検定教科書を導入することについて				道徳で評価を行うことについて				
	保育者 (n=29)	小学校 (n=54)	中学校 (n=14)	高校 (n=14)	保育者 (n=29)	小学校 (n=54)	中学校 (n=14)	高校 (n=14)	保育者 (n=29)	小学校 (n=54)	中学校 (n=14)	高校 (n=14)	
知っている	非常に好ましい	3%	2%			4%	7%		2%				
		1	1			2	1		1				
	好ましい	10%	7%	21%	21%	17%	14%	7%	2%	7%			
		3	4	3	3	9	2	1	1	1			
	どちらとも言えない		37%	21%	7%	26%	36%		3%	19%	21%		
		20	3	1	14	5		1	10	3			
	好ましくない	3%	28%	43%	7%	15%	14%		3%	35%	36%	14%	
		1	15	6	1	8	2		1	19	5	2	
	非常に好ましくない	3%	13%			7%			3%	26%	21%		
		1	7			4			1	14	3		
聞いたことはあるが よくわからない	非常に好ましい												
	好ましい	10%	2%		14%	4%	7%	29%				7%	
		3	1		2	2	1	4				1	
	どちらとも言えない	10%	6%	14%	29%	7%	9%	21%	21%	7%	2%	7%	7%
		3	3	2	4	2	5	3	3	2	1	1	1
	好ましくない	7%	4%			7%	13%		14%	7%	7%	21%	
		2	2			2	7		4	4	1	3	
	非常に好ましくない									6%		14%	
										3		2	
知らない	非常に好ましい	7%				3%							
		2				1							
	好ましい	24%				7%		7%	10%				
		7				2		1	3				
	どちらとも言えない	14%	2%			52%	6%	7%	31%	2%		7%	
	4	1			15	3	1	9	1		1		
	好ましくない	7%			14%	17%		14%	24%			29%	
		2			2	5		2	7			4	
	非常に好ましくない				7%	7%		14%	3%				
					1	2		2	1				

注. 上段は保育者, 小学校教員, 中学校教員及び高等学校教員のそれぞれにおける割合。下段は実数。

4. 考察

本研究の目的は、現場の教師や将来教員を目指している学生たちが道徳の教科化を好ましいと感じているのか否かについて、探索的に検討を行うことであった。教育学部生、保育者、小学校教員、中学校教員及び高等学校教員を対象として質問紙調査を実施し、①道徳の教科化、②道徳に検定教科書を導入すること、③道徳で評価を行うことのそれぞれについて、好ましいと思うか否かを尋ねた。また、現職者の一部に対しては、①～③のそれぞれについて知っているか否かを尋ね、

知っているか否かと好ましいと思うかの判断との間にどのような関係があるかを探った。その結果、以下のことが明らかとなった。

第1に、道徳の教科化をめぐっては、そもそも知っているか否かにばらつきがあった。教科化の当事者とも言える小学校教員及び中学校教員においては9割近くが教科化そのものを知っており、また、道徳で評価を行うことについても知っていると回答した。しかしながら、検定教科書の導入に関しては、小学校教員及び中学校教員においても3割程度が聞いたことはあるがよくわからない状態にあることが明らかとなった。

また、保育者や高等学校教員においては、検定教科書の導入や評価を行うことのみならず、そもそも道徳の教科化自体について知らない、あるいはよくわからない状態にあることが示された。

第2に、道徳の教科化をめぐるのは、好ましさの認識も多様であるものの、当事者とも言える小学校教員及び中学校教員において、特にネガティブな評価が示されていた。まず、教科化そのものに関しては、小学校教員・中学校教員ともに「非常に好ましい」と「好ましい」を合わせても2割に満たなかった。さらに、小学校教員及び中学校教員では、検定教科書を導入に関して「どちらとも言えない」という回答が最も多く、評価を行うことに関しては約7割が「好ましくない」または「非常に好ましくない」と回答した。小学校教員・中学校教員で評価を行うことが好ましいと思っている者は1割にも満たなかった。他方、教育学部生及び保育者・高等学校教員においては、小学校教員や中学校教員ほどネガティブな評価は示されなかった。しかし、現職者を対象として知っているか否かと好ましいと思うかの判断との間にどのような関係があるかを探った結果から、保育者及び高等学校教員において相対的にポジティブな評価が示されたのは、保育者及び高等学校教員が道徳の教科化に関してそもそも「よくわからない」あるいは「知らない」からである可能性が示唆された。

本研究は、特に現職者に関してデータの量が不十分であり、一般化には自ずと限界がある。今後の課題としては、調査方法を改善した上で十分な量のデータを収集し、実際に学校現場にいる教師たちがどのような思いで道徳教育に携わっているのか、より率直なところを明らかにしていくことが挙げられる。その前段階として、次報では、本報で扱いきれなかった教育学部生及び現職者の好ましさの選択の理由づけを分析する。

最後に、道徳教育に関しては、ややもすると問題解決型の学習やアクティブ・ラーニングといった方法論の話ばかりが先行するように思われる。しかしながら、道徳教育でより重要なのは、“教師自身の道徳について学ぶという姿勢” (岩佐, 2015, p.109) ではないだろうか。岩佐 (2015) は、道徳教育に関して、“学習指導要領に基づいて行われている道徳の指導は、どのような価値や徳目であろうと、子どもたちをよい方

向へ導こうとするものであって、決して悪いものではないのだから、細かい部分にこだわることなく、とりあえず、指導すればよい、ということになりかねない” (p.113) と指摘しているが、このことは極めて重大であろう。検定教科書や評価の導入のみならず教科化そのものに対してネガティブな思いを抱いている教師が多い中で、問わなければならないことは「教科化のためにどうするか」ではなく、「道徳とは何か」ということではないだろうか。

引用文献

- 岩佐 信道 (2015). 道徳の教科化にあたって期待されること 道徳と教育, 59 (333), 109-115.
- 文部科学省 (2015a). 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 (平成27年7月) 文部科学省 Retrieved from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2016/08/10/1375633_8.pdf
- 文部科学省 (2015b). 小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 (平成27年7月) 文部科学省 Retrieved from http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afiedfile/2016/08/10/1375633_6.pdf
- 文部科学省 (2016). 道徳教育 文部科学省 Retrieved from http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/index.htm (2016年8月17日)
- 文部科学省初等中等教育局教育課程課 (2016). 「道徳」の評価はどうなる?? 文部科学省 Retrieved from http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/doutoku/_icsFiles/afiedfile/2016/08/17/1222218_001.pdf (2016年8月17日)
- 中村 英 (2015). 道徳の教科化とキリスト教系私立学校の苦悩 東北学院法学, 76, 270 -257.
- 岡田 雄太 (2015). 「道徳」の教科化は本来の道徳教育の目的を目指すことができるのか 東京福祉大学・大学院紀要, 6 (1), 67-72.
- 山崎 雄介 (2016). 「道徳科」をめぐる動向とそれへの対峙 群馬大学教育実践研究, 33, 189-197.

付 記

本研究は JSPS 科研費15K17263の助成を受けた。

(平成28年9月30日受理)